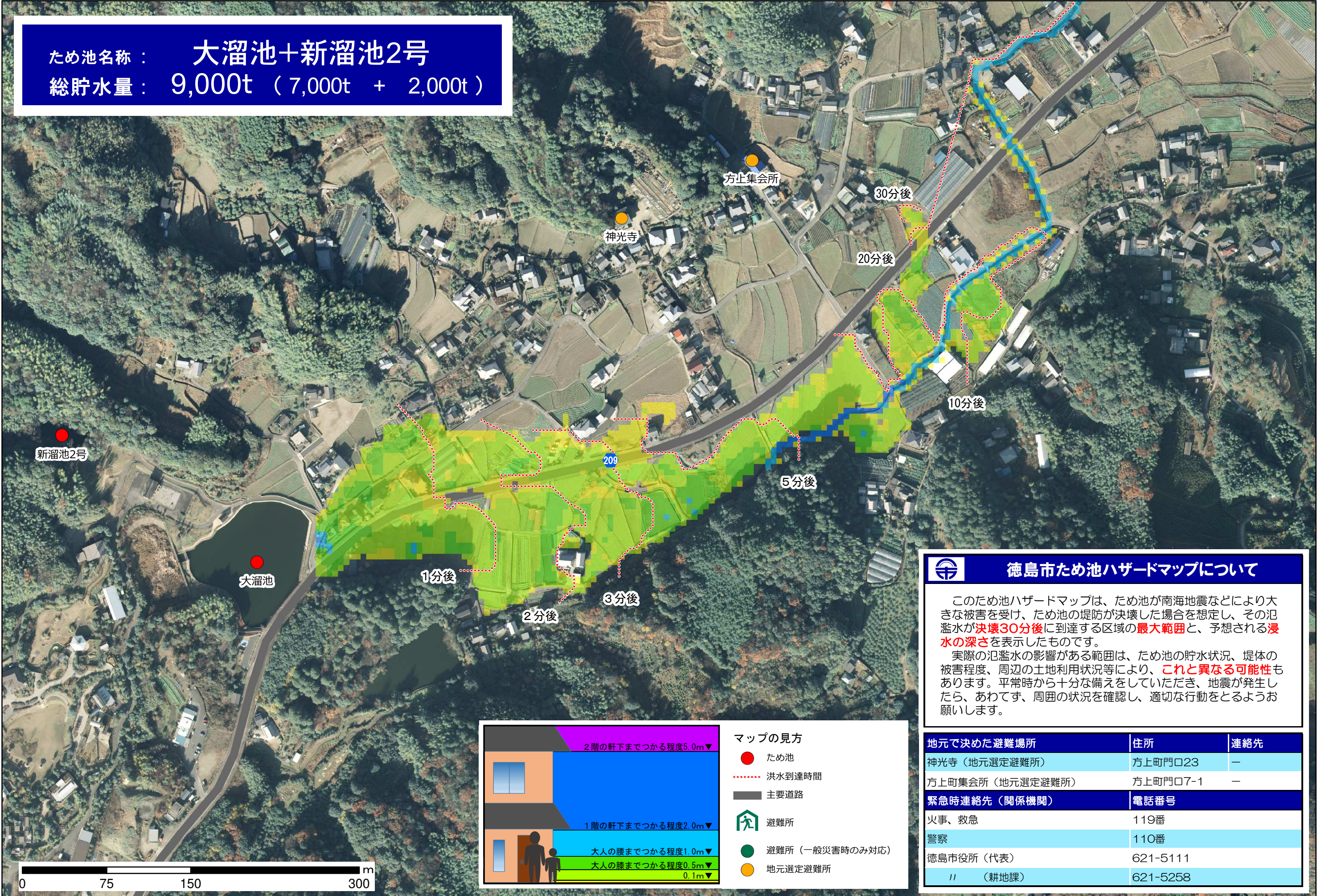


ため池名称： **大溜池+新溜池2号**
 総貯水量： **9,000t (7,000t + 2,000t)**



徳島市ため池ハザードマップについて

このため池ハザードマップは、ため池が南海地震などにより大きな被害を受け、ため池の堤防が決壊した場合を想定し、その氾濫水が**決壊30分後**に到達する区域の**最大範囲**と、予想される**浸水の深さ**を表示したものです。
 実際の氾濫水の影響がある範囲は、ため池の貯水状況、堤体の被害程度、周辺の土地利用状況等により、**これと異なる可能性**もあります。平常時から十分な備えをしていただき、地震が発生したら、あわてず、周囲の状況を確認し、適切な行動をとるようお願いいたします。

マップの見方

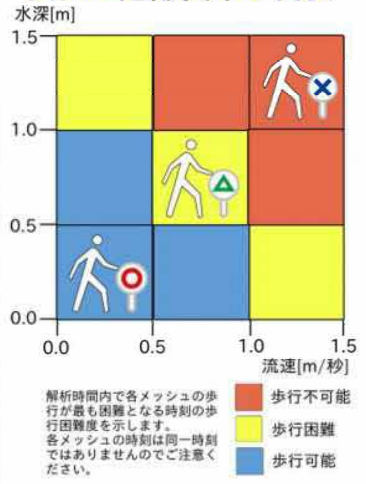
- ため池
- 洪水到達時間
- 主要道路
- 🏠 避難所
- 避難所 (一般災害時のみ対応)
- 地元選定避難所

2階の軒下までつかる程度5.0m▼
 1階の軒下までつかる程度2.0m▼
 大人の腰までつかる程度1.0m▼
 大人の膝までつかる程度0.5m▼
 大人の膝までつかる程度0.1m▼

地元で決めた避難場所	住所	連絡先
神光寺 (地元選定避難所)	方上町門口23	—
方上町集会所 (地元選定避難所)	方上町門口7-1	—
緊急時連絡先 (関係機関)		電話番号
火事、救急		119番
警察		110番
徳島市役所 (代表)		621-5111
// (耕地課)		621-5258

この地図は農業用ため池の大溜池・新溜池2号が南海地震などにより大きな被害を受け、堤防が決壊してため池から一度に水が流出した場合を想定して作成したものです。
 実際に氾濫水の影響がある範囲は、ため池の貯水状況、堤体の被害程度、周辺の土地利用状況や、他の災害の同時発生により、これと異なる可能性があります。地震が発生したら「まずは安全な場所に逃げる」ことがなにより大切です。
 地域のみさんでこの地図をご活用いただき、地震時の安全確保に努めて下さい。

安全に避難出来る目安



- 【凡例】
- ため池
 - 線路
 - 国道
 - 県道
 - 避難所
 - 避難所（一般災害時のみ対応）
 - 地元選定避難所
 - 急傾斜地崩壊危険箇所
 - 地すべり危険箇所
 - 土石流危険区域
 - 他のため池浸水区域
 - 津波浸水深
 - 避難経路

大溜池・新溜池2号

インターネットによる最新情報の入手先

徳島市公式ウェブサイト（消防・防災）

- 防災・災害情報
- ハザードマップ

パソコン スマートフォン 携帯電話

http://www.city.tokushima.tokushima.jp/anzen/shoubu_bousai/

徳島県防災・危機管理情報「安心とくしま」

- 緊急災害情報
- 被害情報

パソコン スマートフォン 携帯電話

<http://anshin.pref.tokushima.jp/>

気象庁（徳島地方気象台）

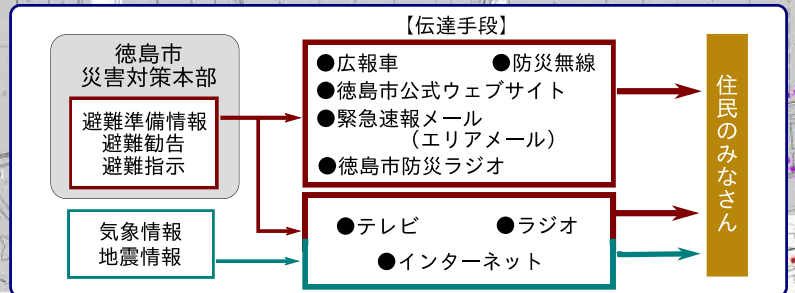
- 天気予報
- 気象警報・注意報
- 降水ナウキャストなど

パソコン スマートフォン

<http://www.jma-net.go.jp/tokushima/>

正確な情報を入手しよう 避難情報や気象情報の伝達経路

避難情報の種類	みなさんのとるべき行動
避難準備情報	●避難に向けた準備を開始してください。 ●高齢者や障がい者など、避難に時間のかかる方は、避難を開始してください。
避難勧告	●身の安全を確保し、家族や近所で助け合いながら、あわてず、すみやかに避難してください。
避難指示	●すぐに避難してください。 ●既に危険が差し迫って避難が困難な場合は、自宅の2階や近くの高い建物へ避難してください。



浸水後の避難困難区域について

状況に応じた避難をしよう ため池決壊による浸水の深さを想定した避難の流れ

・想定される浸水の深さによって、避難方法は異なります。
 ・裏面の地図で、自分の家で想定される浸水の深さを確認し、避難の方法を考えましょう。

【浸水の深さ】	【判断】	【どこへ】	【どうやって】
5m以上の浸水 ●3階以上が浸水	必ず	浸水しない場所 (避難所・道路・空き地・高台など)	●歩きやすい服装 ●徒歩で避難 ●お年寄りなどの避難に協力を ●事前に避難先を話し合う
2~5m未満の浸水 ●2階の天井付近まで浸水	必ず	●安全な場所へ避難する ●水平避難	
1~2m未満の浸水 ●1階の天井付近まで浸水	少なくとも	自宅の2階 危険のない近くの高い建物	●水、食べ物、簡易トイレ、懐中電灯、ラジオ、貴重品などを2階に持って上がる ●近所のお年寄りも一緒に
0.5~1m未満の浸水 ●床上浸水 ●大人の腰の高さ程度	少なくとも	●自宅や近くの丈夫な建物の2階以上にとどまる ●垂直避難	
0.1~0.5m未満の浸水 ●床下浸水 ●大人のひざ下程度	必ず	自宅にとどまる	●むやみな移動はかえって危険 ●屋内待避
0.1m未満の浸水 ●影響が少ないと思われる			

●こんなときは避難しましょう

- 南海地震や直下型地震が発生したら（2~3日後までは警戒が必要）
- 集中豪雨、長雨のとき